



ふくもっちゃんの部屋 ~大活字図書~

本が読みたいのに、字が小さくて読めない…。そんな時は、大活字図書がおすすめです。大活字図書とは、小さな字が読みづらい方のために、文字の大きさや行間などを調整した本のことです。古典や時代小説だけでなく、現代小説やエッセイなど様々なジャンルの本を大きな字で読むことができます。

普通の本の文字

大活字図書の文字

あいうえお



あいうえお

読みたい作品が大活字図書になっているか知りたい時は、職員にお尋ねください。



「講座 福島の民話を聞く」開催のお知らせ

「ふくしま民話茶屋の会」の方々を講師にお迎えし、福島に伝わる民話の語りを聞き、民話の成り立ちや歴史を学ぶことができる講座です。

日時 7月23日(木) 午後2時~3時30分
場所 コラッセふくしま3階 企画展示室CD
定員 30名程度(参加費無料)

申し込み方法 7月8日(水) 9時30分から受け付けます(電話受付可)。
お問い合わせ 西口ライブラリー TEL024-525-4023

図書館カレンダー 7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

図書館カレンダー 8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

印は休館日

印は「ふくよみの日」貸出2倍デー

2026年7月1日発行

編集:福島市西口ライブラリー
〒960-8053
福島市三河南町1-20
TEL024-525-4023

発行:福島市立図書館
〒960-8018
福島市松木町1-1
TEL024-531-6551

《図書館ホームページ》



福島市西口ライブラリー広報



西口ライブ発信

毎月24日はふくしま読書の日です。本に親しみましょう!

2026年
7・8月号

新着本案内



『寝た子は起こすな』

志村 哲祥 著
NHK出版(498シムラ)

子どもが早起きできない原因は、生活習慣の乱れではなく、思春期特有の睡眠リズムにありました。眠りのメカニズムや無理なく質の良い睡眠がとれる方法を紹介するとともに、早起きを美德とする日本の教育に警鐘を鳴らします。



『できる ChatGPT 改訂2版』

清水 理史 著 できるシリーズ編集部 著
インプレス(007デキル)

ChatGPTは、OpenAI社が提供する対話型の生成AIです。本書では、登録から、良い回答を引き出す会話のコツ、生成AIで陥りやすい失敗の対処法、さらには仕事へ活用やプログラミング等の高度な活用法まで、幅広く学ぶことができます。



『ゼロから分かる!図解日本の城入門』

小和田 泰経 著/世界文化社(521オワダ)

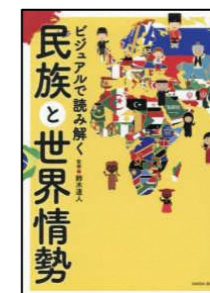
城は、天守や堀、門などの複数の要素から成り立っています。本書では城の基本的な知識だけでなく、「城を建てる理想の場所は?」「黒い城と白い城があるのはなぜ?」といった疑問についても分かりやすく説明。初心者にもおすすめの1冊です。



『立花は諦めず』

近衛 龍春 著
KADOKAWA(PFコノエ)

勇将・戸次道雪の一人娘である闇千代の婿となった統虎。当主として、島津軍侵略の撃退や朝鮮出兵での激闘など、数々の武勇をあげていく。秀吉が信をおいた九州の逸物、立花宗茂の生涯を描いた歴史小説です。



『ビジュアルで読み解く 民族と世界情勢』

鈴木 達人 監修

三オブックス(316ビジュ)

紛争や差別など、混乱する世界情勢の根底には、似たルーツを持つ民族同士のアイデンティティーが絡んでいると筆者は語ります。彼らが歴史の中で対立するに至った要因を、多くの図版を交えながら解説します。

新着本



西口ライブラリーに新しく入った本を一部紹介します。

スマホを見てただけなのに! 鈴木 雄也 著/KADOKAWA(007スズキ)	1+1 井上 荒野 著/潮出版社(Fイノウ)
新・戦国史 NHKスペシャル取材班 著/NHK出版(210.4シンセ)	白と黒のソナタ 宇佐美 まこと 著/祥伝社(Fウサミ)
ジョージアの台所から 小手森 亜紀 著/教育評論社(383オテモ)	贅沢な関係 川上 佐都 著/講談社(Fカワカ)
脳と体を整える体内時計のトリセツ 遠藤 求 著/築地書館(491エンド)	処刑館殺人事件 西式 豊 著/早川書房(Fニシシ)
絶対に見たことがあるアレの正体、聞いてみた 井上 マサキ 著/大和書房(509イノウ)	30代後半、独身、ひとり暮らし 畑野 智美 著/小学館(Fハタノ)
世界でいちばん素敵なゴツホの教室 永井 龍之介 監修/三オブックス(723ゴツホ)	鉄の胡蝶は 保坂 和志 著/講談社(Fホサカ)
悪いことばの力 和泉 悠 著/大和書房(801イズミ)	天領の鷹 上・下 村木 嵐 著/講談社(Fムラキ)
英文読解の思考法 北村 一真 著/NHK出版(837キタム)	猫、そして14の不思議で恐るべき残酷な物語 ベルナルド・ミニエ 著 青木 智美 訳/ハーバーコリンズ・ジャパン(P953ミニエ)
ぼけていく私 佐藤 愛子 ほか著/文藝春秋(910.2サトウ)	手下は犬だけ 風野 真知雄 著/光文社(PFカゼノ)
アンソロジー引越し 大和書房編集部 編/大和書房(914.6アンソ)	作家と編集者 錦見 映理子 ほか著/東京創元社(PFサツカ)

作家と聖地

多くの作家には、人生や作品にゆかりのある聖地が存在します。例えば「蟹工船」の世界観は、小林多喜二が幼少期を過ごした小樽市での日々が基になっています。また小説の神様と呼ばれた志賀直哉は、日本中を移り住みながら数々の名作を書き上げた作家です。特に我孫子市は「小僧の神様」「暗夜行路」といった志賀の代表作が生まれた地として知られています。

ここ福島も、多くの文豪と関わりがある土地です。中でも有名なものが、尾崎紅葉とともに文壇で紅露時代を築いた幸田露伴のエピソード。彼のペンネームは、故郷に向かう道すがら、二本松付近で詠んだ「里遠しいぎ露と寝ん草枕」という俳句に由来すると言われています。聖地を訪れることで、名作や作家達の感性をより深く味わえるかもしれません。

参考文献：『文豪聖地巡礼』朝霧 カフカ 監修/立東舎(910.2ブンゴ)

『ふくしまと文豪たち』菅野 俊之 著/歴史春秋出版(K910.2カンノ)

ライブラリアンの

展示★名作案内



恐怖

～暑い夏、ゾクッとした涼を～



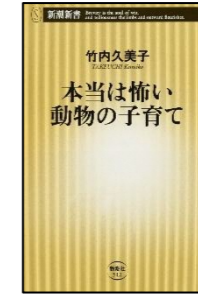
『ネット怪談の民俗学』

廣田 龍平 著

早川書房(388ヒロタ)

「きさらぎ駅」や「くねくね」など、インターネット上で生まれた怪談は数多くあります。これらのネット怪談はどのように生まれ、伝播していったのでしょうか。民俗学を研究する著者が、ネット怪談の歴史と構造を独自の視点で分析します。

みんなで作る、新しい「恐怖」の形



『本当は怖い動物の子育て』

竹内 久美子 著

新潮社(481タケウ)

動物たちは自分の遺伝子のコピーを残すため、子殺しや虐待などの残酷な行為をすることがあります。例えばパンダの母親は生まれた双子のうち、小さく生まれた方の子を育児放棄してしまうのです！動物たちの意外と知らない生態を紹介します。

恐ろしくもたくましい動物たち



『稲川怪談』

稲川 淳二 著/講談社(147イナガ)

臨場感あふれる独特な語り口が特徴の怪談家、稲川淳二。彼の怪談の中から選りすぐりの話をまとめました。死者からの電話、背後から忍び寄る足音、心霊スポットでの恐怖体験…。日常に潜む恐怖に鳥肌が止まりません。

稲川さんのあの声が今にも聞こえてきそう…。



『怖いクラシック』

中川 右介 著

NHK出版(762ナカガ)

モーツァルトのオペラには「父」への恐怖が見て取れ、ベートーベンの交響曲第六番は嵐の恐ろしさを表現している、と著者はいいます。死、神、戦争等、作曲家たちの表す恐怖を9つに分類しクラシック音楽史を振り返る1冊です。

癒される、楽しいではない音楽の表現するものは。



『ゾンビ3.0』

石川 智健 著

講談社(Fイシカ)

突然凶暴化して人を襲い、ゾンビのような病気が世界中で発生した。未曾有の大惨事の中、予防感染研究所の研究者たちは、ゾンビ化の原因究明にあたっていく。発生から七日間の死闘を描いたパニックホラー小説です。

ゾンビ出現はありえなくもないのかも。